

第3期「南丹市地域創生戦略」の骨子（案）

資料2

第2期 南丹市地域創生戦略（2020年度～2024年度）

【現在の戦略】

●南丹市人口ビジョン 平成27年国勢調査の数値を人口動向に反映 目標人口 2060年 24,591人

●南丹市地域創生戦略 ・「人材を育て活かす」「誰もが活躍できる地域社会をつくる」の観点を追加
・「関係人口」の創出・拡大 ・Society5.0の実現に向けた取り組み ・SDGsを原動力にした取り組み

基本
目標

- 1 しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
- 2 南丹市への新しい人の流れをつくる
- 3 結婚・妊娠・出産・子育てに希望のかなえる
- 4 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる

第3期 南丹市地域創生戦略（2025年度～2029年度）

【今回策定する戦略】

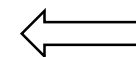
●南丹市人口ビジョン 令和2年国勢調査の数値を人口動向に反映させ、時点修正 ⇒ 目標人口の見直し

●南丹市地域創生戦略

従来の枠組みを**継承**し、**改善**を加えながら**発展**、 + **デジタルの力**を活用する視点

基本
目標

- 1 しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
- 2 南丹市への新しい人の流れをつくる
- 3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる
- 4 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる



「デジタルの力」を活用した
事業や取り組みを盛り込む

「住み続けたい」、「住みたい」と思える南丹市に！

戦略の構造

4つの基本目標の下に基本的方向と施策を定め、それを達成するための事業・取り組みを記載します。

4つの基本目標

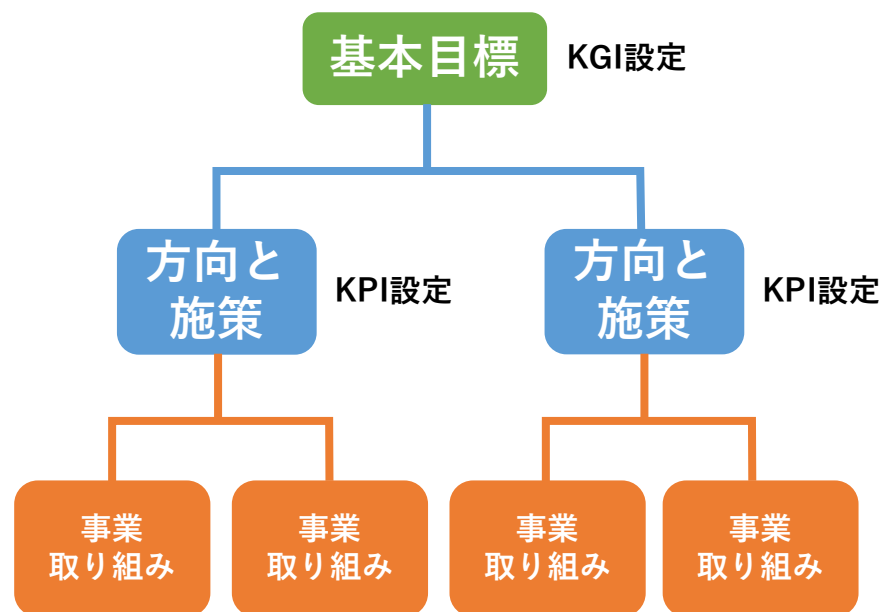
それぞれに数値目標（KGI/重要目標達成指標）を設定し、基本目標の達成度合いを検証できるようにする

基本的方向と施策

それぞれに数値目標（KPI/重要業績評価指標）を設定し、施策ごとの進捗状況を検証するための客観的指標として設定する

想定される主な事業・取り組み

基本目標と施策を達成するための手段を記載し、想定事業・取り組みの中から効果的に実施する



4つの基本目標の達成度を客観的に検証できる指標（KGI）、
施策の効果を検証できる指標（KPI）を設定

第3期で 目指す方向

デジタルの力を活用しながら、南丹市の地域創生を加速化・深化させ、魅力あるまちをつくる
子育て世代の流出防止と移住促進を図り、出生率を高め、人口減少のスピードを抑える

① しごとをつくり、そこで働くひとを育てる

- ・ 南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
- ・ 地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援

【国の戦略の主な取り組み例】

- ・ スタートアップ・エコシステムの確立
- ・ 中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）
- ・ スマート農林水産業（農業機械等の遠隔操作）、食品産業との連携強化
- ・ 観光DX（観光アプリ等） 等

② 南丹市への新しい人の流れをつくる

- ・ 定住・移住促進に向けた取り組みの推進
- ・ ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興

【国の戦略の主な取り組み例】

- ・ 「転職なき移住」の推進
- ・ オンライン関係人口の創出・拡大、移住・就業に対する支援
- ・ 産学官の連携による地域産業の振興・雇用の創出
- ・ 女性や若者に選ばれる地域づくり 等

③ 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

- ・ 結婚・妊娠・出産・子育てを後押しする環境づくり
- ・ 子ども達が地域に愛着を持てる教育や取り組みの推進

【国の戦略の主な取り組み例】⇒ 南丹市版の取り組み

- ・ デジタル技術を活用した子育て支援の推進（オンラインによる母子の健康相談、母子健康手帳アプリの拡大等）
- ・ 結婚・出産・子育ての支援（新生活への経済的支援を含む結婚支援、少子化対策）
- ・ 仕事と子育ての両立など子育てのしやすい環境整備 等

④ 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる

- ・ 誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
- ・ 市民とともに歩む地域づくり
- ・ 次世代に繋ぐ連携の地域づくり

【国の戦略の主な取り組み例】⇒ 南丹市版の取り組み

- ・ 教育 DX、遠隔医療
- ・ 公共交通・物流・インフラ分野のDXにより地域活性化（自動運転、ドローンを用いた物流）
- ・ 個性あふれる地域づくり（脱炭素、エネルギーの地産・地消）
- ・ デジタルの活用による防災・減災対策
- ・ 地域コミュニティ機能の維持・強化等（デジタル活用による高齢者の見守り） 等

4つの基本方針、各施策を達成するための事業や取り組みを記載

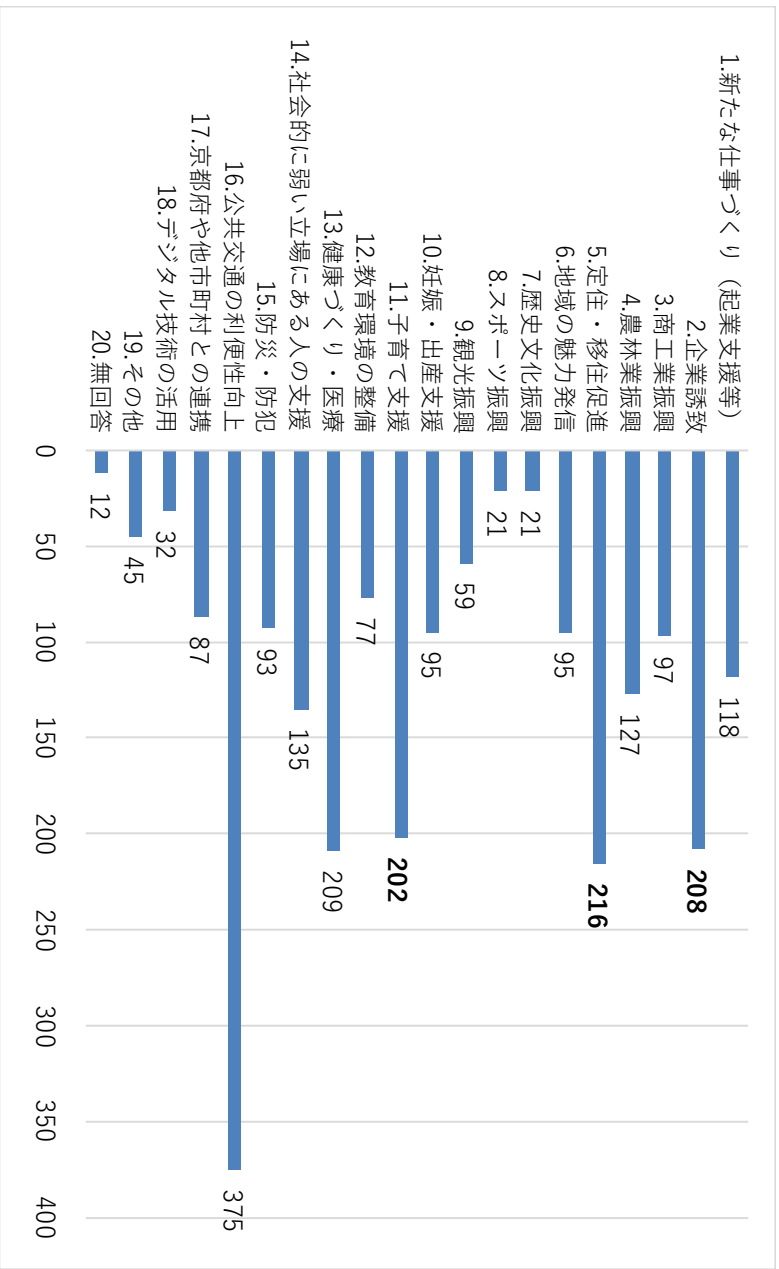
国・京都府・南丹市の各戦略における施策の方向性

	国	京 都 府	南 丹 市
	(令和4年12月改訂) デジタル田園都市国家構想総合戦略	(令和2年3月改訂) 第2期京都府地域創生戦略	(令和7年3月改訂予定) 第3期南丹市地域創生戦略
目指す姿	全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会	一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府	—
施策の方向性	(1) デジタルの力を活用した地方の社会課題解決	—	—
	①地方に仕事をつくる	②地域経済を活性化させ、仕事をつくる	①しごとをつくり、そこで働くひとを増やす
	②人の流れをつくる	③人々を惹きつけ、京都への新しい人の流れをつくる	②南丹市への新しいひとの流れをつくる
	③結婚・出産・子育ての希望をかなえる	①結婚・出産・子育ての希望がかなう、子育てにやさしい社会をつくる	③結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる
	④魅力的な地域をつくる	④それぞれの個性を生かした魅力と活力のある地域をつくる	④誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
	(2) デジタル実装の基礎条件整備 ①デジタル基盤の整備 ②デジタル人材の育成・確保 ③誰一人取り残されないための取組	—	①～④に「デジタルの力」を活用した事業や取り組みを盛り込む

市民意識調査の結果について

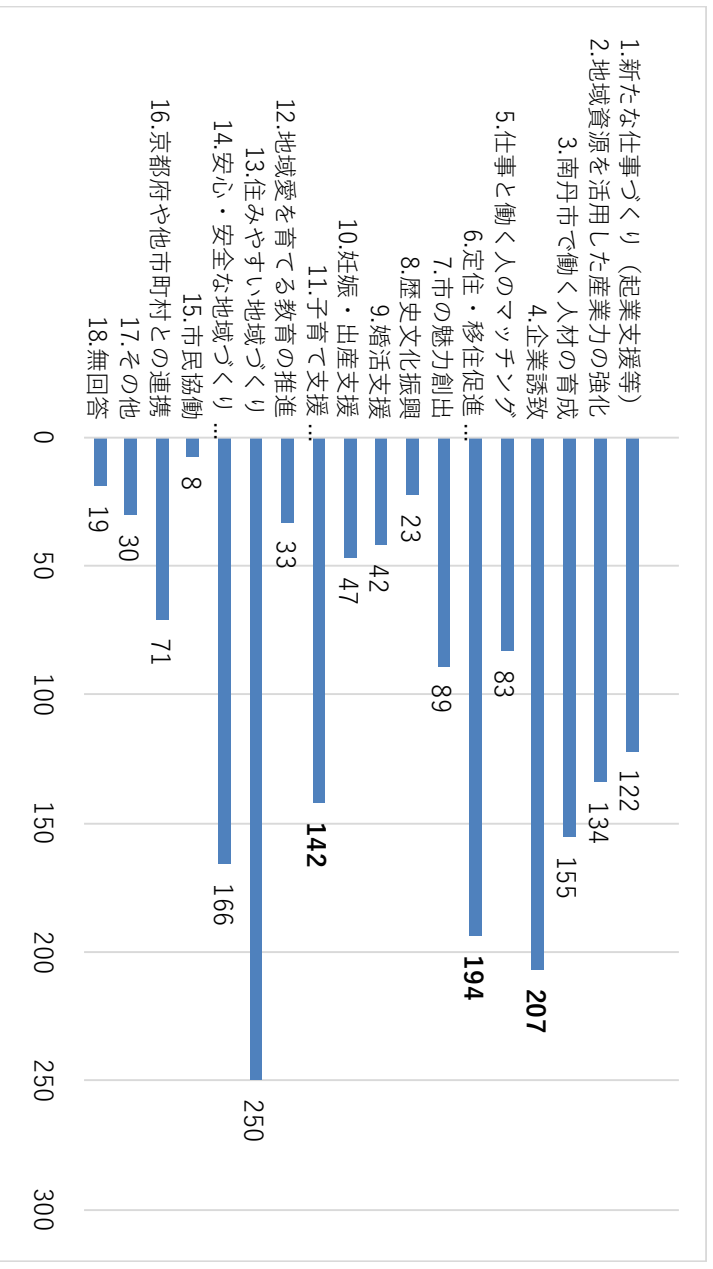
令和6年度調査 あなたは、南丹市を魅力的で住みやすいまちにするためには、特にどの施策に力を入れるべきだと思いますか？《3つまで選択》

※数値は速報値



(1～4：基本目標1、5～9：基本目標2、10～12：基本目標3、13～17：基本目標4、18：デジタル活用の視点)

令和元年度調査 あなたは、南丹市で「地域創生」を推進するためには、特にどの施策に力を入れるべきだと思いますか？《3つまで選択》



両調査で選択肢は異なるものの、いずれも「企業誘致」、「定住・移住促進」、「子育て支援」の回答が多くなっています。なお、令和6年度調査では「公共交通の利便性の向上」が多くなっていますが、令和元年調査時の別の設問「住みやすいまちと思わない理由」でも「交通網の利便性」の回答が多い結果となっていました。総じてこの5年間で市民ニーズに大きな変化は見られないものと考えられます。